

ナメクジ（類）の見分け方

「カタツムリ」というのは陸地に棲む貝（陸貝）の総称であるのと同じように「ナメクジ」というのも「殻を持たない陸貝」の総称であり、種々のカタツムリから進化して殻を失ったものの寄せ集めです。広食性で各種野菜花きを食害しますが、特にアブラナ科野菜の被害が大きいようです。



フタスジナメクジは体長 40mm から大きなものでは 10cm に達することもあります。体側両側に線を有することに由来しますが、中央にも不明瞭な線が現れ 3 本線に見ることがあります。ナメクジとも呼ばれますが、総称と区別するためにフツウナメクジとも表記されます。ナメクジは総称であるとともに、この特定の種名にも用いられます。体色に灰色～淡褐色の変異があります。殻の痕跡（コウラ）は見られません。在来種あるいは古い時代の中国大陸からの移入種と考えられます。



チャコウラナメクジは体長 40～70mm、淡褐色、背面皮下に殻が退化した楕板（コウラ）があります。背面に明瞭な 2 本の縦線があり、コウラの両側で太く濃くなります。1950 年代ヨーロッパからの移入種で、フタスジナメクジと並びよく見かける種でしたが、近年フタスジナメクジのほうが優勢なようです。ナメクジ類全般に見られることですが、樹皮や石垣、建造物壁面などに暗緑色に増殖したクロレラなどの付着藻類上に食痕を残していることがあります。



ノハラナメクジは前 2 種より小型で体長 25～50mm ほど、体色には明褐色～黒紫色の変異があります。灰色も存在するようですが県内で見たことはありません。背面に殻が退化した楕板（コウラ）がありますが、チャコウラナメクジのような 2 本の縦線は見られません。後方の背面には網目状の凹凸があるため、アミメコウラナメクジとも呼ばれます。ヨーロッパからの移入種で、平地に多いとされますが、県内では、他種との争いに負けたのか、山沿いで見られるようです。

上記三種のナメクジ類は生息域が重複せず棲み分けており、農業試験場通用口周辺では、本館側にチャコウラナメクジ、園芸調査棟側にフタスジナメクジが見られます。



ヤマナメクジは、体長 10cm を超える大型のナメクジです。白山のものは特に大きく、活動中には長さ 20cm、幅 4cm にも及びます。路側帯の白線や長靴と比べてください。これだけ大きいと神々しくさえありますが、苦手な方も多いようですので、あえて画像は小さめにしておきました。